経皮的腎瘻造設を受けられる患者様へ

秋田大学医学部　泌尿器科

尿管とは腎臓と膀胱をつなぐ管で、これが何らかの原因（結石、腫瘍、炎症など）で閉塞してしまうと腎臓からの尿が膀胱に流れてこないため、痛み、発熱、腎臓の機能が悪化などを生じます。症状が著しい場合には生命をおびやかす可能性もあり、すみやかにこの状態を改善する必要があります。経皮的腎瘻造設とは、尿を出すための管（腎瘻カテーテル）を背部より直接腎臓に挿入することを言います。

治療内容

〇治療を行う前に点滴を開始します。感染予防のため、抗抗生剤の点滴や内服を行う場合があります。

○　治療は局所麻酔でレントゲンの部屋でうつ伏せで行います。治療時間は 30～60 分程度です。

○　超音波でみながら拡張した腎臓の中（腎杯、腎盂）に針を刺し（支持に合わせて息止めが必要です）、引き続きガイドワイヤーを使用しカテーテルを挿入します。

○　治療終了後は約 3 時間程度のベッド上安静が必要です。

○　以下のような場合には腎瘻カテーテルが良好な部位に挿入できない場合があります。

1）　腎杯、腎盂の拡張が不十分で針での穿刺が困難な場合。

2）　患者さんの状態により治療に十分な体位がとれなかったり、息止めができない場合。

このような場合には、後日再度治療を行うか、別の治療を行う必要があります。

治療の合併症

１）　出血：腎臓に針を刺すことにより、腎臓からのわずかな出血はすべての方にみられます。通常は問題ありませんが、程度が強い場合は輸血や追加の処置が必要になることがあります。

２）　臓器の損傷：治療時の操作により周囲の臓器（血管、尿管、腸、胸膜など）に傷がつくことがあります。程度により追加の処置や開腹手術を行うことがありますが、このような場合は極めて稀です。

３）　術後、尿路感染症により発熱、背部痛などが生じることがあります。

年　　月　　日

上記について説明を行いました。　　氏名

上記について説明を受けました。　　氏名